

巖谷小波日記 翻刻と注釈

——明治三十七年（七月～九月）——

小波日記研究会

《まえがき》

ここに翻刻する巖谷小波の資料は、明治三十七年「当用日記」の七月一日から九月三十日までである。翻刻にあたっては、従来と同様、原則として削除された箇所は省き、削除されていない文字はすべて翻刻するように努めた。

なお九月二十二日、二十三日の部分については、本学児童文化研究センター所蔵の資料に欠落があり、明治大学和泉図書館所蔵の資料を使わせていただいた。同館のご協力に感謝申し上げます。

平成二十八年十一月三十日

猪狩 友一
木村八重子
竹田 修
中川理恵子
(五十音順)

《本文》

明治三十七年 当用日記

七月一日(金) 晴

朝須田来、塾寄附金催促

八時出勤 日露戦史二編上半渡す

午後四時帰

夜北村けいこ

(入) 戦史二編 100,000

(出) 勇へ 40,000

嗜好塾費拂 25,000

残金

萬亭拂 200,000
北村 1,000

【注】朝須田来、塾寄附金催促：欄外に記されている。*日露戦史二編：巖谷小波編『少年日露戦史』（全十六編）は、博文館より明治三十七年から三十九年まで刊行された。収入欄に「100,000」（百円）とあることから、「二編」とは「第一編（開戦の巻）」（明治三十七年六月刊）と「第二編（決死隊の巻）」（同七月刊）をいうか（他編の収入は、一編あたり大体五十円となっている）。

七月二日(土) 晴

八時後出勤

午後二時 芝弥生館、鑛毒地恤兵演説會、演者

多き故余登壇せず 五時後去て 借菜園

三好に招かる 城重雄同席

九時帰途小川町唐物店買物

(出) 買物 3,200

車代 200

須 200

【注】*須 200：「須」は須田か。「20」の前に「」はない。

七月三日(日) 曇

午前下田来本拂 1,200 星野麦人来

大岡及福原二少年来

午後 在宿一睡

夜 訪武内、中元持参

七月四日(月) 晴

八時後出勤

午後四時帰途 平野屋 石橋、竹貫、武田

木村らと會食 後共に歌舞伎座 活動

写真 見物 日露戦争、那翁一代記

十時買物(銀座) 帰

(入) 女学 21,000

〔出〕平の屋 3,00

かぶき 2,30

買物 3,50

三好饒

七月五日(火) 晴

八時後出勤 甚前高橋松州来 旧句与ふ

午後四時帰

食後 廬を訪 後共に 赤坂散步玉遊 九時帰

〔出〕 4,00

〔注〕 *4,00:「4」の数字は重ね書きされており、判読困難。また、出費先の記載はない。末尾の「0」は削除で、「40」の可能性も。

七月六日(水) 晴

朝 八時出勤

午後四時帰

六時 清風亭朗読會に赴く

〔出〕朗読會 50

深 20

〔注〕 *清風亭朗読會:坪内逍遙を中心とした朗読会。清風亭は牛込赤城下の貸座敷。 *深:この文字、あるいは「源」か。意味も不明。

七月七日(木) 晴

欠、在宿 蜻蛉丸脱稿 早稲田大学試験点数了

午後 永富女史来 第一保険會社岡野某来

夜木曜會

七月八日(金) 曇時々雨

八時後出勤

午後四時帰 入浴後食事、向言文一致會(二橋)

に赴く 樋口氏講話、他八名出席

八時帰

〔注〕 *言文一致會:「言文一致ニ就イテ研究シ其ノ実行ト普及ヲ目的トスル」(「言文一致會規則」より)として、明治三十四年に神田一ツ橋通

の帝国教育會(各地の教育會の中央機關)内に設立された団体。
*樋口氏:評論家の樋口龍峽(一八七五〜一九二九)か。

七月九日(土) 風時々雨

七時二十分新橋発 三好の洋行を横濱に送る同

時に 伊藤侯都筑氏川上音尋を従へ九州行

又波多野文学士独乙留學の途に上る

九時後出帆 後三好氏一家と停車場樓上

に小憩 十時四十分帰京

十二時出勤

午後四時帰 夕方父上を訪ひ後北村氏稽古

〔出〕濱行 1,50

〔注〕 *川上音:俳優の川上音二郎(一八六四〜一九二二)であろう。

*波多野文学士:哲學者の波多野精一(一八七七〜一九五〇)。明治

三十七年から三十九年までドイツに留學。

七月十日(日) 風雨

午前大岡竜男来中元持参 小塚来又稲岡来

文士講演會の件

午後一時前 独和會五年祭に臨、於独乙

公使館内 一等書記官、ハース、ベルツ氏らに初會

三時より北村氏謡講 八時帰

〔出〕北村會 50

七月十一日(月) 朝雨 曇夕晴

九時出勤

午後四時帰

夕方勇三、三四らと元園町父上を訪、今朝父上

不例(少時昏倒せんとす)

〔出〕丁稚朝へ 50

七月十二日(火) 晴

朝九時前出勤

午後二時桂舟を訪ひ後青木堂買物
中元大橋へ 四時皆香園白人會、
々者十一名 帰途夕立 辻氏により
閉塞談 傘、下駄帰

〔出〕 白人會 1,200

〔注〕*青木堂：牛込区通寺町の商店。西洋酒、食料用品、和洋煙草等を販売。

七月十三日(水) 晴

朝福田、長田来 十時出勤
午後五時帰
六時後 角田方秋声會、十時帰
〔出〕 点燈講 2,000

七月十四日(木) 晴 暑

終日在宿 画葉書 遠藤表装注文
午後 木村来
夕方岩崎武一郎氏来
夜木曜會画葉 題「夏夜」 余一、二、三等
高階へ七円貸
〔出〕 高階 7,000
遠藤拂 4,750

七月十五日(金) 曇夕雨 涼

九時出勤 女学艸 高崎来館戦談
午後五時 學士會内 動物虐待防止會
に臨む 食後河口慧海師西藏談 旧友
神田佐一郎氏二會 九時後帰

〔注〕*動物虐待防止會：広井辰太郎・井上哲次郎らが發起人となり、明治三十五年に設立された日本最初の動物愛護団体。*河口慧海師：河口慧海は仏教学者、チベット探検家(一八六六―一九四五)。この年に『西藏旅行記』上を刊行。

七月十六日(土) 曇 后暑

八時後出で長松氏一週忌参拜 それより出勤

午後一時 神田青年會館 実業子弟歓迎會
出演 江原氏 余(水の話) 及栗田大機関士
閉塞談

五時去て 紅葉館早稲田大學校友會出席
九時帰

〔出〕 紅葉館 2,000

七月十七日(日) 晴 暑

午前 徳田及 有本来
午後 生田来
夕方より元園町父上兄上を訪、謡曲
菊枝一昨来京 對面 十一時帰

七月十八日(月) 曇

九時出勤
午後四時代地深川亭に赴く 坪谷氏送別宴
館員に招かる 大坂吉岡、峯本二氏及
館友等 三十人余名
帰途 青年會館文士演說會に臨み
一席辨す 稲岡奴之助発起、散後
生田黒田と九段まで歩帰
〔注〕*稲岡奴之助：小説家(一八七三―没年未詳)。

七月十九日(火) 晴

八時後出勤 世伽艸
午後 四時帰
夕方 草村北星来 坪内氏の紹介
夜 下田好之来

〔入〕 少年臨時分 75,000
〔出〕 勇へ 35,000

〔注〕*草村北星：小説家(一八七九―一九五〇)。

七月二十日(水) 晴

八時 新橋停車場に坪谷氏従軍を送る

午後二時半 美術院に赴く 廿日會講話會
寺崎氏 戦況報告 余 美術兄弟

六時帰

【注】*美術兄弟：「兄弟」と読んだ二文字は別字の可能性も。

七月二十一日(木) 曇晴

朝出勤 直帰、途シヤツ求

*世界お伽噺第五十九冊

午後 永富来

又小塚速記氏来 為活動日本口述

夜木曜會

【出】シヤツ二枚 3、60

【注】*世界お伽噺第五十九：『鬼だまし・命の在所（世界お伽噺）第

五十九編』は明治三十七年八月、博文館より刊行。

七月二十二日(金) 晴

九時出勤

午後四時後帰途浅岡ヲ訪 それより歌舞伎座に

赴く 榎本氏の招き也 石橋武田竹貫同行

夜の鶴 島の為朝及 夏小袖 十一時帰

七月二十三日(土) 曇 暑

朝年峰来 又高島平三郎紹介高橋五吉来

十時訪桂舟不在 元園町を訪ふ

午後二時後 新橋に向ふ 江見、廣津、高階、

石橋 岡田らと 江の島金龜樓に赴く 硯友社

會、久我、沢田も亦来會 一泊

【注】*高島平三郎：教育者・心理学者（一八六五〜一九四六）。

七月二十四日(日) 曇

午前散步 開基、花遊

午後廬偶然来會 五時出で七時十七分藤沢

発にて帰る

【出】硯友會費

5、00

七月二十五日(月) 雨

九時出勤 其前大坂菅野須賀子来

午後四時帰

夜 二六社武内政子来 柳原伯来

【注】*菅野須賀子：社会主義運動家、のち大逆事件で刑死（一八八一〜

一九一一）。「菅野」は正しくは「管野」。*二六社：二六新報社であ

る。「二六新報」は秋山定輔が明治二十六年に創刊した日刊新聞。こ

の年四月十四日、秋山が「露探」であるとのデマにより発行禁止となり、

翌十五日からは「東京二六新報」と解題した。

七月二十六日(火) 晴

九時出勤 其前朝 福田及斉藤弥七（高波）来

午後四時帰

夕方 訪父上、辻氏居合 又高階来合

【二行あき】

今夕木村小舟帰省に付き貯金通帳其他預る

【出】勇へ 15、00

【注】*高波：「高」と読んだ文字は別字の可能性も。

七月二十七日(水) 晴曇 暑

八時出勤

午後四時帰

夕方 勇、三と電車 四谷まで 八時帰

夜 廬来訪

【二行あき】

太田南岳一子郷一を失ふの報あり

母衣蚊帳やばアと云うても返事無き

【注】*太田南岳：「太田」は正しくは「大田」か。大田南岳は俳人、画家

（一八七三〜一九一七）。南岳と親交のあった永井荷風の随筆「礫川徇

徇記」によれば、南岳は大田南畝の子孫で、墓は小石川原町の本念寺

にあり、その墓碑および句碑は「小波巖谷先生」の書、自然石の墓石

も「巖谷翁の質を捐てて建てられしもの」であるという。

七月二十八日(木) 晴

欠勤 画葉 読書

午後 永富氏来

夜 木曜會 桜井一寸来又大岡竜雄氏来

画葉「土用」

〔二行あき〕

太田氏へ香奠悼句遣はず

〔出〕 太田氏へ 1,000

七月二十九日(金) 晴曇時々雨

八時後出勤

午後四時帰

夕方 訪廬、囲碁 其他雜誌十時帰

〔入〕 文げい 14,000

太陽 5,000

女学 22,000

〔出〕 福田へ貸 20,000

七月三十日(土) 曇小雨

九時出勤

午後四時帰 速記者山本保造美術院口演筆記

夜読書 持参

〔入〕 120,000

15,000

120,000

〔注〕 *120,000…入筆元の記載なし。次の「15,000」も同様。

七月三十一日(日) 雷雨

午前 大橋、前田来 次で水口紹介十屋諸教

氏来る 宗教史原稿の件

十時下田来 次で 雷雨 落雷廿四所

午後 三時 元園町を訪ふ、竹内文吉藤

井氏来合 又兄公春生等に謡曲

食後 八時帰

〔注〕 *土屋諸教：「諸教」は正しくは「詮教」か。土屋詮教は仏教学者

ある。 (一八七二～一九五六)。著書に『日本宗教史』(早稲田大学出版部)が

八月一日(月) 晴陰

八時後出勤

午後一時斬髪、それより西彦氏に立寄り三時

深川霊岸學校(特殊小學) 父兄懇話會

に臨む 小話 五時後帰

高階来訳料

夜廬を誘ひ共に北村氏けいこ 十時帰

〔出〕 高階 春生も居合 10,000

〔注〕 *晴陰：初め「晴」と記し、その後「陰」を付け加えたと思われる。

*深川霊岸學校(特殊小學)：東京市社会局編『東京市社会事業施設

年表』(昭和四年)に、明治三十六年三月七日「霊岸尋常小学校 深川

区霊岸町一六七)内に特殊小学校を開設す」とある。「特殊小学校」は、

東京市が貧困児童のため設立した、学費を免除し学用品を支給する小

学校。

八月二日(火) 晴

八時出勤 其前教育會飯田来夏期講習會の件(断る)

日露戦史稿

午後四時帰

夜赤坂来又高井国次郎息(啓吉来) 慶応

義塾學生(寄宿の件) 牧野来又桜井来

八月三日(水) 曇

八時出勤 日露戦史

午後四時帰

夜廬を誘ひ北村けいこ

八月四日(木) 曇 涼

八時出勤 日露戦史稿

午後一時半堀井に謡曲本求（十四、三十五）^{*}それより大岡氏を訪

元園町により 五時帰

夜木曜會

〔出〕 謡本半

7、35

本箱

2、00

〔注〕 *八時出勤：「八」の字は「九」の上に重ね書き。

*十四、三十五：

十四円三十五銭の意か。出納記録に「謡本半」とあるのは、その半額
という意味か。

八月五日（金） 晴

八時出勤

* 日露戦史稿了

午後四時帰

夜廬により北村氏稽古 其前粟津氏ヲ訪

〔注〕 *日露戦史稿了：明治三十七年八月刊行の第三編「九連城の巻」を脱稿したか。

八月六日（土） 晴 暑

欠席 朝 下田来 古雑誌拂

午前九時後訪父上、後桂舟ヲ訪ふ 十二時帰

午後五時清風亭朗読會 大鳥居

歓迎、東儀、徳田、水口、竹柴、土肥ら来

十時後帰

〔出〕 朗読會

、65

八月七日（日） 晴 暑

朝校正

九時元園町により春生を誘 山王 茶亭に涼む

勇、三田村後より 又三二、三四、□二郎、さよらも来

五時帰

夕方荒城来大坂新報懸賞脚本の件

夜生田来

〔出〕 山王納涼

3、55

〔注〕 *□二郎：八月二十八日の記には「□次郎」とある。（□の文字は未詳。）

なお、直後の「さよ」は八月二十八日では「小夜」と表記。

八月八日（月） 晴

八時出勤

午後三時五十分新橋に近藤賤男帰朝を迎ふ

途ニ丸善にヘイラム及香水

夜桜井、竹柴、次で久留島妻、又星野及

篠山来

〔出〕 香水及ヘイラム 1、70

八月九日（火） 晴

朝旧知藤田栄三郎来 窮生故に原稿を預り十円与ふ

九時出勤 大橋氏女東京堂妻ら葉山に溺死の報あり

午後四時帰

夜木村来 岐阜行燈土産 竹貫来九時共に去る

八月十日（水） 晴

朝番町大橋氏に赴き、直に新橋停車場に大橋

八重子、同貞子及婢の棺を迎ふ

十一時小石川大橋省吾氏悔みに行く

午後四時帰

夜廬により 北村氏稽古

八月十一日（木） 晴

八時出勤 本日八重子女史葬送の為休暇

直に帰る 途桂舟氏を訪ふ レウマチス病中

三時後 小石川大橋氏に赴く 四時出勤

谷中斎場 葬儀

夜木曜會 画葉 夏植物

八月十二日（金） 晴

八時出勤

午後四時帰

夕方元園町を訪ひ 後北村氏稽古、十時帰

八月十三日(壬) 晴

八時出勤

午後四時帰

夜 角田氏秋聲會に赴く 十時後帰

〔出〕 点頭講 2,000

八月十四日(丑) 晴

午前米訪 高階、有本、国峰、及山田成章氏

午後二時 竹芝館 秋聲會 不曲氏追悼會

竹冷、黄雨、無黄、素竹、望東其他二十名斗

別室 長島弁護士に會 九時帰

〔出〕 竹芝 1,200

〔注〕 *不曲：俳人の川喜多不曲は明治三十六年八月歿。

八月十五日(月) 晴

八時出勤

午後四時帰

夕方西村来 又西村継来る 父上病気の件に付

多納氏を訪 帰途父上を訪ふ 九時帰

夜赤坂帰

〔出〕 西村二拂 2,000
ハンケチ代

八月十六日(火) 晴

朝藤田栄三郎来

八時後出勤 世界お伽噺第六十一 艸渡濟

午後四時帰 赤坂来帰省の件

夜廬により後北村氏けいこ 九時帰

〔入〕 日露戦史 500,000

〔出〕 勇へ 25,000

〔注〕 *朝藤田栄三郎来：欄外に記されている。 *世界お伽噺第六十一：巖谷小波編『世界お伽噺第六十一編 病魔降伏』は明治三十七年九月刊。

八月十七日(水) 晴

八時出勤

午後四時帰

夕方春生来 共に北村けいこ、廬も来

九時帰

佐々木源二郎氏等上京土産送らる

八月十八日(木) 陰晴

朝西河岸島草二佐々木氏を訪不在 それより出勤

為三井時好 艸笑劇一篇「化の皮」

夜 木曜會

甚前 福田桜井来る

〔注〕 *陰晴：「陰」の字は上部欄外にあり、「晴」を記した後で書き加えたものと思われる。 *島草：日本橋区西河岸町の旅館。 *化の皮：巖

谷小波『小波喜劇七章』(明治三十九年、金尾文淵堂)所収。

八月十九日(金) 晴曇

八時後出勤

午後三時半桂舟氏の病(メチ)を訪ふ 六時前帰

不在中 佐々木源次郎氏妻子と共に来訪

後 日下部二赴きし由 即ち食後

之を日下部に訪ふ 九時帰

本日 赤坂生帰国に決す 餞別与ふ

〔注〕 *佐々木源次郎：八月十七日の記の「佐々木源二郎」と同一人物と思われるが、喜前の表記は「源二郎」「十七日」「源次郎」(本日)と異なっている。

八月二十日(土) 晴

午前七時後堀端に常陸丸遭難六百三十五名の葬

送を拝す 未曾有の観

九時前出勤

午後二時柳橋を発し 舟行水神八百松に赴く

白人會、者十三名 角田、高尾氏津軽

氏も會す

七時後舟にて帰り両国に花火（川開）を見歩帰
新大橋を迂回 十一時後帰宅

〔出〕 白人會費の他足シ前 5,000

〔注〕 *常陸丸遭難：明治三十七年六月十五日、日露開戦で陸軍運送船となつた貨客船常陸丸は、対馬海峡でロシア艦隊に撃沈され、千名余が犠牲となつた。 *八百松：向島の料理屋。枕橋八百松楼。

八月二十一日（日） 晴

午前寿久山、有本、星野相次て来又美香来

十時元園町父上を訪ふ 兄上居合謡曲

食後 二時前 北村氏謡曲會に赴く

呉服ツレ 実盛ワキ 小賢、雨月、小鍛冶（ワキ）

八時帰

浴後 楼上看月

〔出〕 超然會 500

春生分 500

〔注〕 *、500：金額の単位不明。次行も同様。

八月二十二日（月） 晴

八時出勤

少年巻頭稿す

午後四時帰

五時後出で石橋を誘ひ 共に歌舞伎座

大坂二わか見物 雀屋団十郎一座

岡田、廬後より 十一時後廬及其姪らと帰る

〔出〕 歌ぶき座 3,000

〔注〕 *雀屋団十郎：大阪の俄狂言師（二八四六、一九〇八）。

八月二十三日（火） 晴

八時出勤

午後四時帰

夕方北村けいこ、後 父上を訪ふ十時帰

八月二十四日（水） 晴

八時出勤 世伽第六十二稿了渡す

午後四時帰

夕方高階来^{*}2貸

夜大橋氏を訪 武内氏縁談の件 後北村稽古

十時後帰

〔出〕 北村 1,000

〔注〕 *世伽第六十二稿了渡す…この箇所は一行目と二行目の間に記されている。『金馬將軍（世界お伽噺第六十二編）』は明治三十七年九月、博文館より刊行。 *2貸：「2」は別字の可能性も。

八月二十五日（木） 晴 少々涼を感じる

欠勤 画葉など

朝長松氏来

夕方加藤晴来 永島原稿持参

夜 木曜會 画葉、虫

八月二十六日（金） 晴 涼

八時後出勤

午後風邪の気味早退

夜発汗

八月二十七日（土） 晴

欠勤 就床為風邪

午後竹貫木村見舞来

玉井よりレクラム沢山着

〔注〕 *玉井：冒険家、ジャーナリストでドイツ在住の玉井喜作（二八六六、一九〇六）か。

八月二十八日（日） 晴

午前八時半発大磯西彦別荘に向ふ 勇、三二、三四、□次郎、小夜ら同伴 一泊

午後海岸散歩 後長松未亡人及男

を長生館に訪ふ

三二胃腸を害し不機嫌 夕方散歩
〔出〕 大磯費 8,000

八月二十九日(月) 陰晴*

朝八時五十九分発帰京、車中加藤照磨氏一家族と同室又石川博士に會す、十二時新橋着 余は出勤
午後四時帰

夕方大岡竜雄来又 日本美術編輯婦人口演の謝礼ビール一打持参
夜元園町訪問 辻氏居合

〔注〕*陰晴：「陰」の字は上部欄外にある。*加藤照磨：医師、貴族院議員。加藤弘之の長男(一八六三〜一九二五)。*石川博士：動物学者(理学博士)の石川千代松(一八六一〜一九三五)か。

八月三十日(火) 晴

八時 青山墓地に赴く*坪内銳雄氏葬式に會す それより出勤
午後四時帰、
夜武内氏を木沢病院に訪ふ 小林觀月居合す

〔入〕 早稲田 15,000

* 120,000

稿料 33,000

* 藤田分返 10,000

〔出〕 勇へ 135,000

〔注〕*坪内銳雄：評論家(一八七八〜一九〇四)。坪内逍遙の甥。日露戦争で戦死。*120,000：入金元の記載なし。*藤田分返：八月九日の記の「藤田栄三郎来……十円与ふ」と対応するか。

八月三十一日(水) 雨曇 狂風

〔東宮御誕辰〕
八時後出勤
午後四時帰

夜廬を訪ふ 九時後帰

〔入〕 文げい点料 7,000

〔出〕 弁当 3,000

九月一日(木) 曇晴

二百十日 但し少々風ある而已

八時後出勤 日露戦史起筆

午後四時帰

岡田来武内見舞金ヒ托

夜木曜會

〔入〕 越高 40,000

〔出〕 高階へ訳料 12,000

九月二日(金) 晴 暑

朝八時後出勤

午後四時帰

食後青山北町借家を見る 二宮氏持家 水道

引設の事を談じ去る 帰途元園町により

勇、三一後より、後北村氏けいこ十時帰

九月三日(土) 雨

八時後出勤

午後四時帰途武内を見舞ふ

夜在宿

〔出〕 武内見舞分 4,000

石橋分立かへ 2,000

九月四日(日) 晴夜雨

午前年峰来 加藤来

午後元園町に赴き 日下部家電話にて赤坂家屋

取極る

一時後 廬を訪 加藤居合 四時三人にて

和田英作を訪画見 後紅葉館に赴く

別席長松男佐分利博士とあり 十一時帰

〔二行あき〕

本日遼陽占領公報

〔出〕和田達ニ巴亭分残半 10,000

〔注〕*青山：「赤坂」の右に書き加え。*本日遼陽占領公報：この箇所他よりやや大きく記されている。*和田達ニ巴亭分残半：この箇所横書きで「和田ニ達ノ巴亭ノ分ノ残半」と上から下へ記されている。「和田ニ」の「田」と「ニ」の下に「達」の字があり、「和田」と「ニ」の間に「達」が入ると見なした。「残半」は残金の半分の意か。

九月五日(月) 晴

八時出勤 田代古岨に世伽挿画注文

午後 早退 帰途丸善書籍求

銀座資生堂に曾達水吞 鳥谷部、長谷川

二氏同行

一睡、勇を青山ニ宮に遣はし敷釜拂はしむ

夜北村けいこ、九時帰

〔入〕*日露第四 50,000

〔出〕勇へ 50,000

〔注〕*田代古岨に世伽挿画注文：田代古岨は『龍宮の使者(世界お伽噺第六十四編)』(明治三十七年十一月、博文館)の挿絵を担当。*曾達水：曹達水(ソーダ水)か。明治三十五年開業の資生堂ソーダファウンテン(資生堂パーラーの前身)は、ソーダ水やアイスクリーム等を供し、人気を博した。*日露第四：『少年日露戦中第四編(南山の巻)』は、明治三十七年九月、博文館より刊行された。

九月六日(火) 雨

九時出勤其前 琴月来 日露第四稿了

午後四時一寸帰宅直に湖月に赴く 本日

近藤賤男氏歓迎會及遼陽占領祝宴

編輯局員一同 十時帰

〔注〕*琴月：小説家、児童文学者の福田琴月(一八七五―一九一四)か。但し、「琴」と読んだ文字は別字の可能性も。*十時帰：この箇所は四行目と五行目の間に記されている。

九月七日(水) 晴

八時出勤

午後四時後帝国教育會 祝捷會に臨む

六時半帰

〔入〕画報分 5,000

〔出〕*琴月立替 12,000

〔注〕*琴月：前日の「琴月」と同様、「琴」は別字の可能性も。

九月八日(木) 晴

欠勤

午前武内を病院に訪ふ 筒井氏後より写真

中食後 辻氏を訪ひ 後元園町により四時帰

夜木曜會葉書 加藤米合 又倉西

来訪直去る

〔注〕*筒井氏：画家の筒井年峰であろう。*倉西：「倉知」の可能性も。

九月九日(金) 曇

八時出勤

午後一時 水谷町□原□江方ニより八咫屋に

額縁注文 歌舞伎座活動写真見る

鳥谷部及武田氏同席 四時半帰

夕方 廬により それより北村氏打合せ

〔入〕中学分 3,000

〔注〕*□原□江：人名か。二文字未詳。

九月十日(土) 晴

八時出勤

午後二時神田青年會館少年會に赴く □演

江原素六翁及 余(菓子) 其他少年

少年の歌、話、及音楽等別に 栗原

騎兵伍長の戦地談 五時半帰

夜新川酒商 中村来

〔注〕*江原素六：教育者、政治家、麻布中学校(麻布学園)の創設者(一八四二

（一九二二）。 *新川：京橋区靈岸島新川か。「酒問屋あるを以て古より知らる」（東京市市史編纂係編『東京案内（上巻）』明治四十年）。

九月十一日（日） 晴

午前来訪 星野麦人、東儀、西村釜蔵及高須梅溪（紅葉書翰及下田歌子の分貸与）
午後一時 北村氏 謡曲會、余俊寛、ヤスヨリ及放下僧シテ 独吟大原御幸
五時去て 上野精養軒早稲田大學
講師招待會に招かる 九時帰
〔出〕 北村會 50
同息子祝言會 1,00

〔注〕 *高須梅溪：評論家、水戸学研究者（二八八〇〜一九四八）。 *ヤスヨリ：平判官康頼。謡曲「俊寛」中の人物（ツレ）。

九月十二日（月） 曇雨

朝 廬により又武内を見舞 十時半出勤
午後四時帰途一寸三井二久保田氏を訪ひ
時好受取り 五時帰
夜在宿
〔出〕 時計直 80

九月十三日（火） 晴

朝匹田氏少年會の礼に来 又牧野来
九時出勤 女学艸
午後四時帰 綱島氏来
夜元園町父上を訪 囲碁など 十時後帰

九月十四日（水） 晴

八時後出勤 前菊枝来
午後四時 鳥、長、押、上、松、木、石倉らと平の屋
食事後 六時四十分 品川停車場に
羽田少尉の出征を送る 館主其他館員
電車にて八時帰

九月十五日（木） 曇

自本日 早稲田大學開講、第三年級午前
二年級午後
四時上野三豆亭 向井大放追悼會に
赴く、木曜會及鏡花、斜汀、春葉
秋声、年峰、加藤、辻ら二十名
九時電車にて帰
〔出〕 大放追悼會 1,50

九月十六日（金） 雨風

八時出勤
午後四時帰
夜幻燈など

九月十七日（土） 曇 南風

九時前出勤 中央公論艸送
午後一時半 婦人教育會に赴く 口演熊
大村氏 婦人の公共事業
四時半 京橋側巴亭 白人會に赴く
會者十三名 九時半散帰
〔一行あき〕
斬髮
〔出〕 白人會 1,30
髪 75

九月十八日（日） 晴 暑

午前黒田来
午後一時三十分一寸元園町により それより電車にて
青山宅見分に赴く 勇三四先づ在り 春生
南岳 生田来遊 五時前帰
夜高階来 又 木村、竹貫来

九月十九日（月） 雨

九時前出勤

夜 高階来再召集のよし

読書

九月二十七日(火) 曇

八時後出勤

午後四時帰 高階来 食事後去

夜北村氏けいこ、

〔出〕 高へ 10,000

九月二十八日(水) 曇

八時後出勤

午後五時退館直ニ清風亭朗読會

東、水、竹柴、徳田 九時帰

〔注〕 *世伽熊娘：『熊娘』(『世界お伽噺』第六十三編)は明治三十七年十月、

博文館より刊行。

九月二十九日(木) 晴

朝護国幼年會 湯地丈雄氏来談

九時後一寸武内により(前に退院) 早稲田大学

午後三時半帰

永富嬢来 村田勤氏来 又木小舟来

夜木曜會

〔入〕 120,000

自本月早稲田 30,000

文げい 15,000

女学 10,000

〔出〕 勇へ 15,000

〔注〕 *湯地丈雄：元熊本県警部。退官後、元寇記念碑の建立を首唱し、明

治三十七年、龜山上皇の銅像(現在福岡市博多区東公園内)を建立。

また、二十八年には大日本護国幼年會を設立(二八四七〜一九一三)。

*木小舟：木村小舟。 *120,000：入金元の記載なし。

*15,000：原文の記載は「1500」(「なし」)。

九月三十日(金)

九時出勤

午後四時帰

夜元園町行 閉巻謡

〔出〕 丸善 4,500

其他中食費 4,000

北村 1,000

〔注〕 *九月三十日：この日「天気」の記載なし。

《付記》

平成二十三年三月の東日本大震災以降、本研究会はしばらく休会状態であったが、木村八重子先生、竹田修先生はじめ、関係各位のお蔭で再開することができた。継続してご支援をいただいている児童文化研究センターのスタッフの皆さんにも、心より感謝申し上げます。(猪狩・中川記)

午後三時半 新橋、坪谷、田山二氏の帰朝を迎ふ 帰宅

夜 元園町を訪ふ 母上三日来マラリヤに罹らる、九時帰

【注】*坪谷、田山二氏の帰朝：坪谷水哉と田山花袋は、日露戦争従軍から帰国した。花袋『第二軍従征日記』（明治三十八年、博文館）の「緒言」に、「自分の東京を発したのは、三月二十三日午後九時半。宇品を発したのが四月二十一日午後三時。それから同年の九月十九日午後三時新橋停車場のフラットホームに下車したので、其間の日数は百八十三日」とある。

九月二十日（火） 雨

八時後出勤 芹沢来館
午後四時帰 夜在宿

九月二十一日（水） 雨後晴

九時出勤
午後二時 桂舟を病院に訪 三時一寸帰宅
四時後 亀清に 坪谷、田山二氏
歓迎會、會者四十名 九時帰

〔入〕勇より 5,00

九月二十二日（木） 晴

朝辻氏又若林来
十時早稲田出勤 三時帰 永富来
夜木曜會 画葉初秋 葵□□の事
〔入〕三井より 40,00
〔出〕勇へ 30,00

【注】*九月二十二日：この日の日記、及び同月二十三日の日記の翻刻は、明治大学和泉図書館所蔵の資料に拠った（白百合女子大学児童文化研究センター所蔵の資料に欠落があるため）。*葵□□の事：「葵」は生田葵山を略記したか（本年一月十二日の「木曜會新年宴」の記でも、

人名を「葵」など一文字で略記している。二文字未詳。

九月二十三日（金） 晴

秋季皇靈祭
午前加藤、吉水来 次で廬来又阿部来
正午廬と出で 四谷三河屋食事後
加藤と停車場に會 共に上野行
白馬會、彫金會見物 電車にて
銀座に向ひ 資生堂ソーダ水飲み後
日晴亭玉遊 余一人帰宅
夜牧野来 為卯杖談話

【注】*卯杖：秋声会の俳句雜誌。明治三十六年一月創刊。

九月二十四日（土） 曇夜雨

九時前出勤
午後十二時五十分両国発 亀戸下車 江東梅園月令會に赴く 會者 梶田、佐々木、玉堂、柳原、金子薫園、尾上柴舟、角田竹冷、及余、席上葉書など合作
夕食後 雨来 八時後車にて雷門二来り それより電車 須田町より又車にて十時後帰宅
〔出〕月令諸費 1,60

九月二十五日（日） 雨冷

午前 大橋氏来
午後 一時元園町二赴く 又日下部氏二赴き 謡曲、春、父上も 勢多辻来合
夕食後七時帰、菊枝昨日帰西

九月二十六日（月） 曇冷

八時後出勤 中學艸
午後四時帰